1年生トリオ！

亮×木村大希

躍進の秋へ向け、本拠地を離れ、長野の地で臨んだ夏季キャンプ。そんな中、上級生に囲まれ奮闘する江越大賀(法1)、福山亮(経1)、木村大希(営1)の3人。この秋、ますます活躍が楽しみなルーキー3人の視点から、キャンプやチームの様子、そして各々のこれからにかける意気込みを伺った。

ラストシーズン 4年生の姿から

――キャンプ9日目ですが、長野はどうですか？

福山 ちょっと虫が…。足が蚊に刺されまくりました(笑)。

木村 クワガタがいたので、びっくりしました！洗濯場のところにいたんですけど…びっくりしました！

江越 東京より涼しいです。

木村 そうですね。長野の方が全然涼しいです。

――キャンプ中、チームの雰囲気はどうでしょう。

福山 秋のリーグ戦に向けて、4年生は最後のリーグ戦になるんですけど、それに向けて全力でとりくんでいるなっていうのが僕たちにも伝わってきます。

――特に誰がというのは？

福山 やっぱりキャプテンの岡さんが。一番チームをひっぱって行こうっていうのが後ろ姿から伝わってきます。

福山亮 内野手兼外野手
ふくやま りょう
1992年9月22日生まれ。
東海大相模高出身。
右投左打/179㎝/75㎏

――個人的にこのキャンプにはどんなことに重点をおいて臨んでいますか？

木村 僕は体力がないので、とりあえず体力作りを。(試合の)中盤になってくると足が言うことときかなくなってきたり、監督からも「体が使えてない」って言われているので。

江越 僕は打率が悪かったので、秋に向け少しでも打率をあげて行きたいです。

4年間で何度も優勝したい

――春のリーグ戦について伺いたいのですが、1年生ながら出場して、そこから得たものは？

福山 得たものっていうか、感じたことなんですけど、東都のレベルは高いなって。高いとは思っていたんですけど、リーグ戦を終えて再確認できたっていうか。これから4年間やっていく中で、いずれは4年生としてチームを引っ張って行く立場になると思うので、絶対にこの4年間で何度も優勝して、ただ神宮でリーグ戦をやるだけじゃなくて、神宮大会に出て、東都の代表として神宮でプレーしたいと思いました。

江越 ピッチャーがレベル高いし、野手も上手い人がたくさんいるので、自分は高校の時は全国とかそういう大きい舞台を経験してないので、全国のすごい選手を知らない。もっともっと練習が必要だなと思いました。

木村 僕はピッチャー一本で始めたのが大学からなので、ずっと野手していたので。こんなピッチャーで最初から投げさせてもらえるとは思ってなかったんですけど、一つ一つ得るものが多くて本当に充実しています。

――高校と大学の打者の違いはどんなところに感じましたか？

木村 東都はとりあえず高校の3、4番ばっかり来ているので、1番から9番まで抜け目ないっていうか…少しでも高かったら全部打たれる。考えて投球するようになりました。

――配球は？

木村 戸柱さんですけど、僕も一個一個感じで覚えろって言われているので。僕に全然経験がないので、とりあえず今は勉強させてもらっています。来年からどんどん、自分の考えでやって行きたいです。

――逆に野手の視点から高校と大学の投手の違いはどんなところに感じますか？

福山 スピードだけだったら140とか投げるピッチャーは高校でもいたんですけど、スピードは同じでもキレが違ったり、甘いところには投げてこないし、変化球も高く浮いてくるのはそんなにないですし。一球一球考えを持って行かないとすぐ打ち取られるっていうのは感じました。

――キャンプ中、野球教室(※1)は楽しかったですか？

木村 楽しかったです！僕は小学生(担当)だったんですけど、けっこういろんな話が